
日常の色

癒得

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日常の色

【Nコード】

N0955E

【作者名】

癒得

【あらすじ】

空を見上げたら青い色をしていた。それだけでなぜか嬉しい。

（前書き）

意味なく短編小説です。

ただ空を見してみる。毎日なんとなく見ている。

同じ場所、同じ空を見ている毎日違う・・・気がする。

それから歩き始める。のんびりした空気と風と。

毎日通る道もなぜか飽きない。

最近緑色になってきた樹が見えてくる。

樹が笑っているような・・・そんな気がする、葉っぱと葉っぱが風ですれる音。

歩き疲れて少し体温が上がった体には心地よい風。

こちら辺で見知った顔が声をかけてくる。

「おはよ」

「昨日のテレビ見た？」

意味のないただ楽しいだけの話。

「今朝の風を楽しんでるの、静かに」

「ぶはははっ、ごめん、ごめん」

そんな話をする頃、学校のすぐそば。

大学と呼ばれるそこは、知識を学び、試す場所。

ただ話を聞くだけの講義、演習のような講義。

眠てしまいそうなところを抑えて切り抜ける。

空が赤く染まり始める頃、また空を見る。

真っ赤になった空、橙色に光る太陽が少しずつ沈んでいく。

「もう夕方か」

あっという間に過ぎていった時間。

「これでまた子どもでいれる時間が短くなった」

もうすぐならないといけない“大人”。

なぜかわからないけど好きだった日常はすこせなくなる。

「空ぐらい・・・見上げる時間はあってほしいな」

あたりが暗くなり、建物の光がつき始める。

また空を見上げると少なくなった星が見える。

子どもの頃見た星空はもう。

“大人”になった時、見上げる空は・・・どうなっているだろう。

そしてまた朝がくる。

一人では何も変えられない大人にまた近づく。

いや一人では何も変えられないのは子どもも大人も同じかもしれない。
いい。

ただ空を見ている。毎日なんとなく見ている。

同じ場所、同じ空を見ている毎日違う・・・気がする。

でも確実にわかる事はある。

空はまだちゃんと青色をしている。

（後書き）

修正しました。皆さんそろって「ん？」と言う場面があったようです。
これで無くなればいいのですが・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0955e/>

日常の色

2010年10月28日06時46分発行